

「戸」の由来

一から九の「戸」の地名



「戸」って何だろう?

岩手県北部から青森県南部にかけて「一戸」から「九戸」まで、「戸」の付く地名がずらりと並んでいます。なぜ「戸」の付く地名がこんなに並んでいるのでしょうか?

そもそも「戸」とは何なのでしょう?

小学館の国語大辞典で「戸」という言葉を調べてみると「人戸、民家、戸籍」とあります。う〜ん、「人戸」当たりにヒントがありそうですね。

東北古代史研究の第一人者、高橋富雄氏の説によれば次のとおりです。当地域は古来名馬の産地として知られていました。そのため馬産のためエサである馬糠の納入義務を負う郡「糠部郡」と呼ばれていました。そこに、馬を年貢として納めるための個別経営体として「馬戸」を設置し、その「馬戸」の集落「馬戸村」が「一戸」「二戸」などに移行したとしています。ごくごく大まかに言うとそんな感じです。

ほかにも、守備兵の柵という説や、地名の「閉伊」だ、いや「ヒエ」だなど諸説紛々です。

そのように「戸」の語源には様々な説がありますが、設置目的としては「貢馬のための行政組織」という説が有力です。

「戸」はいつできたのだろう?

では、この「戸」の地名は一体いつできたのでしょうか?

かつては、南部家初代光行が、糠部郡を源頼朝から拝領して九つの牧場を設けたといわれていましたが、現在ではほとんど否定されています。

先に紹介した高橋富雄氏は11世紀半ばとしていますが、ほかにも安倍氏、清原氏、奥州藤原氏の時代など様々な説があり、いまだ結論が出ていません。

ただ、鎌倉幕府の正史である「吾妻鑑」の文治6年(1190年)の項に、陸奥の「戸」で産出した馬を指す言葉である「戸立」という言葉が出てくることから、鎌倉時代初期には成立していたと考えられています。



一戸城跡から出土した馬の焼印 (御所野縄文博物館所蔵)



復元された中世の馬廄(八戸市「根城の広場」)

なぜ「四戸」はないんだろう?

地図をよく見ると「四戸」だけありません。なぜでしょうか?

正平21年(1366年)の日付がある「四戸八幡宮神役帳」には一戸から九戸までの全ての地名が登場します。もちろん四戸もあります。つまり以前は四戸がありました。

かつて、八戸市西部に位置する櫛引八幡宮は「四戸八幡宮」と呼ばれ、この地域を支配した櫛引氏が「四戸殿」と呼ばれていました。そのため、櫛引八幡宮周辺や旧福地村(現南部町)、旧南郷村(現八戸市)の一角が「四戸」だったと考えられています。

なぜ「四戸」は消えたんだろう?

なぜ「四戸」は地名から消えてしまったのでしょうか?

「し」という言葉が「死」に通じて縁起が悪いからという説もありますが本当でしょうか?

かつて「四戸」があった地域を支配していた櫛引氏は九戸の乱で滅亡します。「四戸」の地も諸氏の所領として分割されることになりました。そのことから「四戸」の名も消滅したのではないかと思います。(二戸市史編さん室 奥昭夫氏の教示による)



中世の糠部郡 (人間田宜夫「糠部の駿馬」より)

なぜ「一戸」の隣が「九戸」なんだろう?

地図を見ると、「一戸」から始まり、順次北上して陸奥湾近くに「七戸」があります。ところが、なぜかそこからUターンして「八戸」「九戸」と続きます。そのため、一戸と九戸が隣り合わせになっているように見えます。なぜでしょうか?

その謎を解くためには当時の交通事情を考える必要があるようです。

一戸から七戸までは街道が通っていましたが、そこ海岸地域とは険しい山並みに遮られており、四戸から分岐して八戸に出なければなりません。今でも、一戸や二戸から九戸に行くには小倉岳や折爪岳を越えなければなりません。

馬の産地を表す「戸立ち」という言葉がありますが、「八戸立ち」「九戸立ち」という言葉は、源平盛衰記にも吾妻鑑にも出てきません。

そのため、まず一戸から七戸が建てられ、その後八戸、九戸が追加で建てられたため、このような配置になった可能性があります。(二戸市史編さん室 奥昭夫氏の教示による)



軍馬の伝統を今に残す流鏝馬(やぶさめ) (九戸城流鏝馬競技大会)

非常にディープな「戸」の世界。いまだ十分に解明されていない部分があります。

全国でも例のない、このナンバリング地名。みなさんも、一戸から九戸までぐるっと旅してみたいかたがでしょうか。きっと思いがけない発見があると思いますよ。

【参考文献】
青森県六戸町編、大石直正監修「北辺の中世史 戸の町の起源を探る」
二戸市「二戸市史 第一巻」
大矢邦宣「九戸四門の制」(『久慈・二戸・九戸の歴史』所収)
二戸市史編さん室「続二戸歴史物語」
人間田宜夫「糠部の駿馬」(『東北古代史の研究』所収)